

福岡県西方沖地震被災体験と被害写真

05年3月22日朝 西南学院大学 磯 望

2005年3月20日午前10時53分のM=7.0（九大観測所M=6.4）の地震は、福岡市西区愛宕浜の18年前の海岸埋立地の自宅で体験しました。最初は大型トラックが近づいてくるような騒音と振動が数秒次第に強まり、その後強い横揺れがきました。当初は低音が強まってトラックが家に突入するような印象で、地震と認識したのは数秒後の強い横揺れ開始からです。揺れのピークは開始から10秒後以降でしょうか。壁につかまりながら家人が開けた玄関から15秒ほどで飛び出しました。長周期の地震で、地面も家もきしみながら波打つように揺れました。大体40秒程度で揺れはおさまりました。横揺れの最中は周期が長いので、もしかして南海地震かと思いました。しかし、短い地震だったのでより近い地震とは思いましたが、福岡近辺が震源とは放送で確認するまでは考えもしませんでした。

我が家では室内でテレビは落ちましたが、幸い振動方向と棚の方向が一致していたらしく、食器などの被害がなかったことは幸いでした。市内のかなりの家庭では食器が割れるなどの家具転倒の被害が生じており、後始末に追われたようです。周期の長い揺れは私の家が埋立地のせいだけではなく、どの人も船酔いしたような揺れだったと言っています。不幸にも塀倒壊で亡くなった人の例も、揺れで気分が悪くなってしゃがみ込んだところに塀が倒れたとの証言がありました。

玄界島の被害が注目されていますが、市内西北部西ノ浦地区の住宅被害も深刻です。また、志賀島・海の中道から東区香椎にかけての震央分布の延長部分でも構造物被害が集中しています。また都心部の天神や赤坂から薬院にかけての警固断層東側の沖積層の厚い地域の建造物も被害が出ています。被害報告はこれからも増えそうです。

液状化現象による被害は、昭和60年代以降の埋立地では締め固め工法を実施していたため比較的軽微な噴砂にとどまり、建物被害にはなりませんでしたが、古い埋立地は地盤沈下や亀裂が生じています。歩道の縁石や敷石やガードレールなどは一部で振動によって盛り上がり変形したりしています。

市内はライフラインの損傷が比較的軽微で、ほとんどの家庭でそのまま電気・水道・ガスが使用できたことは助かりました。困ったのは、電話が有線も携帯も肝心な数時間ほとんどつながらなかったことです。携帯メールは使えたようですが、老眼の私には使用不能です。現在市民生活は正常に機能しており、有感余震も少なく、一部を除いて暮らしへの影響は小さかったのが幸いでした。

地震発生時刻が連休中の午前中で外出者が少なかったことも幸いしました。津波地震にならなかったことも極めて幸運でした。そして周期の長い地震だったことは建物やライフライン被害を最小限にとどめた原因かも知れません。また振動が徐々に強まったので、身構える余裕がありました。その意味で今回の地震は、極めて「幸運」な地震だったように思います。様々な情報をメールで流してくださった関係の皆さんに厚くお礼申し上げます。



玄界島被災地集落（RKB ヘリコプターより磯撮影：3月21日午後2時）
被災状況は写真を拡大して見て下さい。



福岡市早良区百道浜；南側縁石が壊れ歩道の柵が傾いている。（3月20日磯撮影）
写真の垂直に見える柵は傾いています。